

4 2021年度 その他取組事項

コロナ禍で需要が減少している花きの消費回復と生産から販売の体制維持、県産花きのPRを目的に「あいちの花」の庁舎展示を実施しました。 (農政課)

令和3年度花き消費回復対策事業を活用し、愛知県三の丸庁舎1階ロビーにおいて10月から2月まで合計5回、本県産花きを使用した装飾展示を実施しました。愛知県の育成品種である「かがり弁ギク」など、本県産花材をふんだんに使用し、毎回展示テーマにあわせた花材を使用したディスプレイとなりました。

展示期間	展示テーマ	使用花材
10月19日(火) ～10月26日(火)	秋色菊の艶姿 <二十四節気> 10/23霜降	・菊 ・リンドウ ・ゲイトウ他
11月24日(水) ～12月1日(水)	冬の始まりをカーネーションで彩る <二十四節気> 11/23小雪	・カーネーション ・スプレーカーネーション ・グロリオサ他
12月7日(火) ～12月14日(火)	年の終わりをバラで華やかに <二十四節気> 12/7大雪	・スプレーバラ ・アルストロメリア ・カーネーション他
1月25日(火) ～2月1日(火)	新春に咲き誇る菊 <二十四節気> 1/20大寒	・かがり弁ギク ・桜 ・姫水木他
2月15日(火) ～2月22日(火)	春の訪れをいろいろな花たちが乱舞 <二十四節気> 2/19雨水	・かがり弁ギク ・レンギョ ・コデマリ他

来庁された方々が、季節を感じさせる色とりどりの花々を目に留め、立ち止まって鑑賞したり、スマホで撮影するなど「花」を楽しむ様子が見られました。

今回の取り組みが本県産花き(切花、鉢花)のPRとなり、花きの消費回復につながることを期待されます。



2月の展示
テーマ：春の訪れをいろいろな花たちが乱舞



10～1月までの展示状況

水稻への被害が問題となっている「スクミリングガイ」の効果的な防除の実現に向けて防除対策案を作成しました。
(農業改良普及課)

近年、尾張地域ではスクミリングガイ（通称ジャンボタニシ）による被害が増えており、農薬による防除は行っていますが効果は上がっていません。そこで、効果的な防除の実現に向けて小牧市、大口町及び北名古屋市内で展示ほを設置し、各対策の効果を検証しました。

小牧市及び大口町における冬季耕うんと移植期の薬剤散布試験では、厳寒期（12月～2月）に最低1回は耕うんすることが貝密度の低減に重要であり、移植期の薬剤散布を組み合わせることにより防除効果が高まることがわかりました。

北名古屋市における網及び捕獲器設置試験では、取水口・排水口等への網設置により水田内への侵入防止効果が確認され、さらに捕獲器設置の組み合わせによりスクミリングガイによる食害が少なくなりました。捕獲器は手に入りやすい苗箱及び米ぬかを使用することで安価に作成でき、1週間に1回ほどの回収でもスクミリングガイを捕獲できました。

これらの結果を踏まえ、効果的な防除対策案を作成しました。今後は作成した防除対策案の実証を行い、地域や生産者の実情に合った効果的な防除策を取捨選択できるよう支援していきます。

また、日進市でも、スクミリングガイの発生が確認され、発生拡大を防ぐため、地域（営農組合）、日進市、JAあいち尾東、農業改良普及課、農業総合試験場が連携し、ジャンボタニシ駆除対策モデル事業が実施されました。



網と捕獲器の組み合わせによる防除



モデル事業における防除効果の確認

農地や農業用水、農業農村整備事業の役割や効果等について、県民の理解を深めるため、関係団体と連携して「田んぼアート」イベントにてPR看板を設置しました。
(建設課)

名古屋市港区の農地では、毎年「田んぼアート」イベントが行われています。

「田んぼアート」とは、色の異なる古代米等を用いて田んぼに絵を描く取り組みです。農業にふれあい、身近に感じてもらうため、地域住民を対象に、イベントの中で田植えや稲刈り、脱穀等の農業体験を実施し、農業の歴史や楽しさを伝えています。

2021年度はイベント10回目を迎え、「10回目記念、ありがとう！おかげさま！」をキャッチフレーズに「千手観音」が描かれました。新聞やテレビ等にも取り上げられ市民の関心も高まり、遠方からも見学者が訪れました。

このイベントが行われている農地は、2004年度から2010年度に「県営経営体育成基盤整備事業茶屋新田地区」で、ほ場整備事業を実施しました。事業にて整備を行ったことで、効率よく営農が行えるようになりました。

また、当イベントは地元の農業農村多面的機能支払事業の活動組織「茶屋新田地域資源保全隊」を中心に名古屋市などと連携して開催しています。

「茶屋新田地域資源保全隊」は、きめ細やかな施設管理はもちろんのこと、各種イベントも積極的に実施しており、地元の農業と農村環境を守っています。

昨年度開催された「田んぼアート」イベントにて、ほ場整備事業の役割や「茶屋新田地域資源保全隊」の活動内容、その他イベント開催周辺地域にて行っている農業農村整備事業について紹介するPR看板を設置しました。多くのイベント参加者にPRパネルを観ていただき、さらに事業を実施した農地にて実際に稲作体験を行っていただいたことで、より一層農業農村整備事業に対する理解を深めてもらいました。



PR看板設置の様子



イベントで描かれた田んぼアート

都市部における県産材の利用を促進するため、「あいち認証材[※]」を活用した県内施設の木造化、内装の木質化等に対して支援しました。 (林務課)

森林は地球温暖化の防止、生物多様性の保全など環境保全機能のほか、水源のかん養、災害の防止など多様な公益的機能を有していますが、近年、手入れが進まない森林の増加により、公益的機能の低下が危惧されています。

一方、本格的な利用期を迎えている県内の森林を伐って、建築物等に長期間利用するとともに、適切に植林することは、カーボンニュートラルの実現やSDG sの達成に貢献します。

そこで、森林整備や木材利用の意義と木材活用の効果や木材の優れた特性を事業者や県民に理解していただき、県産木材を積極的に利用していただくため、多くの県民の方が利用するPR効果の高いモデル的な施設の県産木材利用に対して支援する「木の香る都市づくり事業」を尾張旭市及び北名古屋市で実施しました。

尾張旭市内の「はくほう学童保育クラブ施設」では、建物の木造化や木製備品の導入、北名古屋市内の「特別養護老人ホーム かもだの里」では、内装の木質化に対して助成をしています。

今後も、都市部での県産木材の利用拡大により、森林資源の活用を促進します。



はくほう学童保育クラブ施設
(尾張旭市)



特別養護老人ホーム かもだの里
(北名古屋市)